

## 2024年度 第3回 藤沢市立御所見中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2024年10月24日（木） 16時00分～  
場 所 藤沢市立御所見中学校 図書室

### 【学校運営協議会委員（コミュニティ・スクール）】

1	会長	加藤 宏章	元御所見中学校 PTA 会長
2		鈴野 達也	青少年育成協力会（青少協）代表
3		吉田 康行	御所見中学校 PTA 会長
4		大井 秀幸（欠席）	ふれあい共有ネットワーク（三者連携）代表
5		森 祐一	元御所見中学校 PTA 会長
6		鈴木 理恵	元御所見中学校評議員
7		佐藤 孝子	御所見地区民生委員
8		須藤 和久	御所見市民センター長
9		坂本 哲也	CSW、市社会福祉協議会
10		山本 亜矢（欠席）	ココロまち診療所 健康予防管理士
11		長谷部 葉子（欠席）	慶応義塾大学 環境情報学部 准教授
12	副会長	山田 大	御所見中学校 校長
13		荒船 友樹	御所見中学校 教頭
14		小川 直美	御所見中学校 地域担当 総括教諭

傍聴：なし

#### 1. 開会

本日司会の吉田さんを紹介

#### 2. 御所見中学校近況報告（山田校長）

つい先ほどまで文化祭のステージ発表を体育館で行っていた。委員の方も参加していただいた。御所見の子供たちの暖かい雰囲気を表していて、とても良かった。

7月 資料参照。

8月 エアコン工事 調理室も含めた特別教室に設置。全教室に完備となった。

9月 宇都母知神社宵宮祭り・・・吹奏楽部の有志2人が演奏を行った。

10月 御所見小学校との合唱交流会。中学校からは1～3年生の優秀賞を取ったクラスがそれぞれ合唱。今年は小学校の4・5・6年生もそれぞれ合唱の発表があった。これからも、このような交流を続けていきたい。

PTAの味噌づくり交流会。とても雰囲気がよيناかで開催をすることが出来た。学校としても授業参観や土曜参観等保護者の皆様と直接触れ合えるような機会を今後も設けていきたい。

御所見小給食交流 御所見中の教員が小学校の給食の時間に教室に入り、クラスの中での交流を企画している。

11月 目久尻川クリーンキャンペーン 6月にも参加する機会があり、今回は学年行事として参加していく。

少年の森の奉仕活動 地域との触れ合いと体験型学習を兼ねて、実施する。（落ち葉を使って焼き芋をする。）

上記のような活動を通して、生徒の皆に有益な活動となれば、今後も継続して行い、その他地域の皆様からの活動の提案があれば、ぜひ取り入れながら実践していきたい。

### 3. 【協議1】 コミスク運営計画への提案

#### (1) 各所属団体、機関・地域からの提案

発言・提案なし

#### (2) 学校からの提案

##### ① 御所見・中里地区3校（御所見中・御所見小・中里小）合同コミスクについて

御所見地区では2校の小学校の生徒全員が御所見中学校に進学する。またそれぞれの会議に委員が重複して参加している現状。一つにまとめることで、より効率的に運営協議が出来るのではないかと？

山田：実際、他地区で先行して、合同で開催している。通常1校15名までの委員で、実施しているが、委員の数は30名まで、という範囲の中で、会議体を開催することが出来る。

吉田：会議体を傍聴する場合の範囲や規定はあるか？

山田：事前に申し出ればよしとする。

吉田：委員の人数が30人となると広がりすぎてしまうのではないかと？

山田：小学校の要望も聴きながら、人数等は調整できたら良いと思う。（児童クラブ等）

##### ② 中学校北側の歩道拡張について

御所見中学校北側の歩道が大変狭く、すれ違う時に危険を感じる状態。現地で商店を営む方が、以前から市や県に掛け合っていると聞いている。今年度市議会議員から、御所見中学校長とPTA会長が連名で陳情書を提出すれば県が動くといわれている。中学校としては、御所見小も含めた保護者、地域住民の総意で陳情を上げるべきだと考えており、来年度以降の三校合同コミスクで検討したいと考えている。（実際に広げるとなると、中学校側の防災倉庫の場所を移動するなどが必要。）

荒船：現実的に倉庫を移動すれば可能。防災倉庫も実際活用しにくい場所にあるため移動も一つ。

鈴木：広げるとなると実際どの程度か？

荒船：プールの方までを想定している。

加藤：銀杏の木なども伐採になるのか？

荒船：必要に応じて適宜伐採することになる。

吉田：実際に危険を感じるような事例はあるのか？

荒船：歩いている小学生をよけようと自転車の中学生が同をに出たため、トラックドライバーに一喝されたことがあった。

森：自転車は原則車道を走行すべきだが、現状どうなのか？

山田：その通りで、実際には生徒が自転車を降りて歩道を歩いている。そのすれ違いなども狭い様子。

須藤：教育施設課には連絡が行っているのか？

山田：他課との連絡も確認しながら進捗を確認していく。

##### ③ 別室登校「ごしょみルーム」について

山田：現在、1階の相談室を利用して別室登校「ごしょみルーム」の開設を進めている。火・水はスクールカウンセラーが使用するため、月・木・金曜日の3日間、午前9時～12:00の運用を予定している。現在学校以外の場所での運用も可能かどうか、検討している。支援員（指導員）は青少協の方などに協力を依頼しているところ。

荒船：実際の見守りの要員として、中学校での教育実習を終えられた方たちがインターンのような形で、見守りをお願いすることを考えている。見守りとして来てくれる方には、謝礼をお渡しできるので、有償のボランティアのような形で実施することが出来る。地域団体に協力をお願いするのは、地域の小・中学校の地域の別室の見守り体制を整えることが出来るのではないかと？という想い。

（荒船教頭は青少年指導員をされている。）

指導員は実際真夏に外でパトロールを行っているが、猛暑の中での活動を、学校での別室での見守り活動にしてもらうが良いのではないかと考えている。

3校それぞれが場所を設けるのは、人員の確保の観点からも難しいと思うので、御所見地区3校合同で、このごしょみルームを共同で運営していくのがよいのではないかと考えている。

須藤：いつ頃から行っていくのか？

山田：遅くとも3月までには実施したい。

須藤：市民センターも空いている時間には場所の協力が出来る。

鈴木：火曜：水曜は、学校外での開催を考えているのか？

山田：その通り

鈴木：青少協は夕方時間にパトロールを行うので、日中に活動に協力が出来るのではないかと？

荒船：実際に地域の方に協力してもらう時間は8:30~12:30。その中でフルタイムでの協力だけでなく、例えばこの2時間、等部分的な協力をもらうことが出来れば運営ができるとかんがえている。まずの優先順位は、学校の中での開設が出来ればと思っている。また、実際に活動するにあたっては、毎週同じ時間に従事できる方ばかりではないと思うので、誰か、見守りの方のシフト管理をするような方を設ける必要がある。

(人がいないから本日閉所しなければいけないときに、それが生徒・保護者にわかるようにしなければならない。)

吉田：いわば第2の学校のようになる。誰がどのように管理していくかが大切。

荒船：まず、学内のルームを開設していくところからがよいと考える。

吉田：教育実習生にきた大学生に従事を依頼して謝礼を出すとのことだが、青少協の方や青少年指導員が来た場合にも同様の謝礼が出るのか？

荒船：出す予定。現状有償ボラの場合は、交通費は出ない。不登校支援員として登録すると、ボランティアではなく仕事として行ってもらうことが出来る。

謝礼は、最低賃金相当・・・昼食代と交通費がまかなえる程度、になるか。

鈴木：この件について、次のコミスクを待つと、会議体が先になってしまうが、今後の検討はどのように進めていくか？

山田：市民センター・鈴木委員と情報共有しながら進めていければ。教頭と、人材の確保について進めていき、コミスクの開催を待たずに、開設に向けて動いていきたいと考えている。

荒船：進めていくには「誰か、支援員が出来る人いませんか？」という募集をかけて、団体で集約していく必要がある。自分が関係している部署の中で、各会議体でそれぞれ発信してもらい、11月半ばくらいに協力委員の情報の取りまとめをしてもらえると助かる。

P T A全員に声をかけると、自校の不登校当事者に保護者が関わる状況になる。

そのあたり、保護者への説明は、鈴木委員等に協力してほしい。

例：うちの子が不登校だから、子どももそこに行くのに合わせて、親が見守りに行く。→親子関係の中で過ごしてしまうことが発生してしまうのではないかと？

吉田：在校生の保護者の見守りは、まず無しにするのがよいのではないだろうか？

荒船：指導員にも強要するわけではなく、提案してみて、先方が同意してくれたら、青少年課などに相談していく形になるか。御所見からそのような活動が発端となって、市域全体に広まっていけばいいなと思う。

荒船：地域学校協働本部を作る話もあるが、まず、今ある既存の団体がどのように活動していけるのか？

鈴木：そのような地域コーディネーターがいる学校は市内にあるのか？

荒船：まだ1~2校。

吉田：別室を作る意義・想い・狙いは、社会生活が送れるようにするために設けるという認識でよいのか。通常の教室には入れないけど、この部屋ならはいれるようになったら良いと思う。場所の開設が目的ではなく、そこに通うことが出来、学校に通うことが出来ることが大切。

山田：学校の教育目標のスローガンのもとに運営をしてきているが、色々な学校で経験を積んできた教員の力を借りて「学校にいづらくなってしまう子を出さない」というのを大きな目標として構えて、取り組んでいきたい。心理的安全性が高い学校運営を目指したい。支援会議の中で、1年生の中で勉強についていけない子たちを集めて勉強会をやっている「G アップ」というものを開催している。コグトレという教材を使っているが、それぞれの理解度・認知度に合わせて、個別に対応をしていくことが必要。以前実施していた「御所見タイム（朝の読書）」なども今後必要か。「AI と人間は共存できるか？」・・・生徒でそれぞれ、様々な意見が出てきた。色々な側面から物事をとらえる生徒がいた。

山田：次回、委員の皆に学校評価で意見をもらいたい。「毎日寝起きを同じ時間にしているか」「国語の授業は将来役に立つか？」などの項目は肯定的な意見が本校でも多い。

地域の視点からも、より良い学校づくりのために様々な意見をもらえたらありがたい。

吉田：小学校の高学年で躓くと、やはり中学校に行ってから、学習で躓いてしまう印象。

荒船：今回の保護者を入れない文化祭については、コロナから数年間実施してこなかった。生徒・教員と一緒にみんなで発表をする場を作りたいと思うなら、開催してみたらどうか、と教員に伝えた。教員は、他の教員の協力を得ながら主体的に動き、今日の開催に至った。今日の2時間という限られた時間の開催が、半日開催、1日開催、さらに御所見市民センターホールでの開催となれば、より地域の方たちに幅広く知ってもらい盛り上げてもらえればよいのではないか。

荒船：今回開催をした後帰ってきた教員・生徒の表情はとてもよく、達成感があつた。このような活動が地域・保護者ともつながる活動の一端となっていくのではないか。

佐藤：実際に本日観覧をして、発表をしていた子供たちがとてもいきいきとしていた。

坂本：発表の場は生徒にとって、とても良い経験であると思う。御所見ルームについては、「開設すること」が目的なのではなく、そこで生徒たちが、どう過ごすか、というところが大切。また、開設したものをどのようにして継続していくかも大切だと思う。

鈴木：以前は不登校支援について、御所見中学校のコミュスクで当初話題に出した時には、なかなか全体で取り上げ行ける内容なのか不安があつたが、会議体を重ねて、このように現実の検討事項として進んできたことがうれしい。

学校の発信により良い地域づくりが進んでいったらよいのではないと思う。

#### ●今年度のコミュスク会議日程（予定）

開催回	開催日時	会場
第4回	2025年1月23日（木） 16:00～	御所見中学校 3階 図書室
第5回	2025年2月27日（木） 16:00～	